

# ユニバーサルデザインのまちづくり研修（新卒対象ver）

ユニバーサルデザインのまちづくり研修

2015～2019、2021年度  
UR都市機構

## 業務概要

### 目的

ユニバーサルデザイン(UD)のまちづくりの取組みが近年提唱されているが、福祉のまちづくり条例のガイドラインやマニュアルに基づく整備だけでは、不十分であることも指摘されている。そこで、障害のある人と共に、まちの環境をUDの視点から検証するワークショップを通じて、具体的に多様なニーズを実感する研修を実施した。

なお、障害理解を中心に据えた研修とした理由は、健常者に対応したまちづくりに比べて、障害に配慮した整備技術が圧倒的に遅れていること、UDまちづくりに携わる技術者が、障害のある人との交流がほとんどないこと等から重点的に取組んだ。

### 研修の企画

1日の研修の中で、「UDのまちづくりの考え方を学ぶ座学」と「UDまちづくりの必要性を実感するまち歩き」を実施した。

## 研修の概要

### UDまちづくりの考え方を学ぶ

障害のある人と直接話したことがない研修生も多いことから、車いす使用のUD専門家、まちづくりのワークショップの経験豊富な視覚障害者、聴覚障害者の講義を行った。講義内容は日常生活、住宅の配慮事項、障害当事者から見たUDまちづくり、障害者差別解消法に定義された「合理的配慮」などについて取り上げている。

### UDまちづくりの必要性を実感するまち歩き

車いす使用者または視覚障害者と共に、1グループ4～5人に分かれ、障害者当事者ととも研修会場周辺のまち歩きを行った。まち歩きの前には一緒に昼食を取ったり、まち歩きの途中で買い物をしたり、電車に乗る中で現状のまちの中に存在するバリアによる困難さを体験し、UDの視点の重要性を実感し、業務の中で取組む重要性を確認した。

また、車いす使用者と一緒にまち歩きを行うグループには自走式の車いすを用意し、研修生が実際に車いすに乗って、まちの中を歩く体験を行った。

まち歩きの後は、新たに気づいた点、問題点や課題、解決方法などをグループ別にまとめ、発表を行った。



## 研修の評価

### ・ “気づく”ことができた

例：マニュアルに従ったから問題が解決した訳ではなく、利用して初めて分かる残された問題がまだあること。

### ・ 車いすの体験でわかったことがあった

例：普段は感じることのなかった傾斜や段差が不便と分かった。街を見る目が変わった。

### ・ 障害のある人が参加した研修の意義

例：実際に障害当事者と一緒に行動すると、何が問題なのかよく分かる。しっかりと内容が記憶に残る。

\*研修後のアンケートより